

野菜栽培に関する調査報告書

2014年1月

カゴメ株式会社
メディアコミュニケーション部

〒103-8461 東京都中央区日本橋浜町3-21-1 日本橋浜町Fタワー Tel: 03-5623-8503

本資料を転載、引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

調査概要

1. 調査の目的 野菜栽培に関する意識や、取り組みの実態を明らかにするため
2. 調査の方法 インターネット調査
3. 調査対象 野菜栽培に取り組む全国の20代以上の男女600名
※ 年代で均等割り付け
4. 調査期間 2013年11月11日(月)～12日(火)
5. 企画・分析 カゴメ株式会社 メディアコミュニケーション部

回答者のプロフィール

性別

	n	男性	女性
総数	600	300	300
(%)	100.0%	50.0%	50.0%

年齢

	n	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
総数	600	120	120	120	120	120
(%)	100.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%

地域

	n	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
総数	600	39	35	219	95	104	43	14	51
(%)	100.0%	6.5%	5.8%	36.5%	15.8%	17.3%	7.2%	2.3%	8.5%

職業

	n	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦(主夫)	パート・アルバイト	学生	その他
総数	600	28	17	92	62	42	44	17	123	65	24	86
(%)	100.0%	4.7%	2.8%	15.3%	10.3%	7.0%	7.3%	2.8%	20.5%	10.8%	4.0%	14.3%

未婚

	n	未婚	既婚
総数	600	195	405
(%)	100.0%	32.5%	67.5%

子供の有無

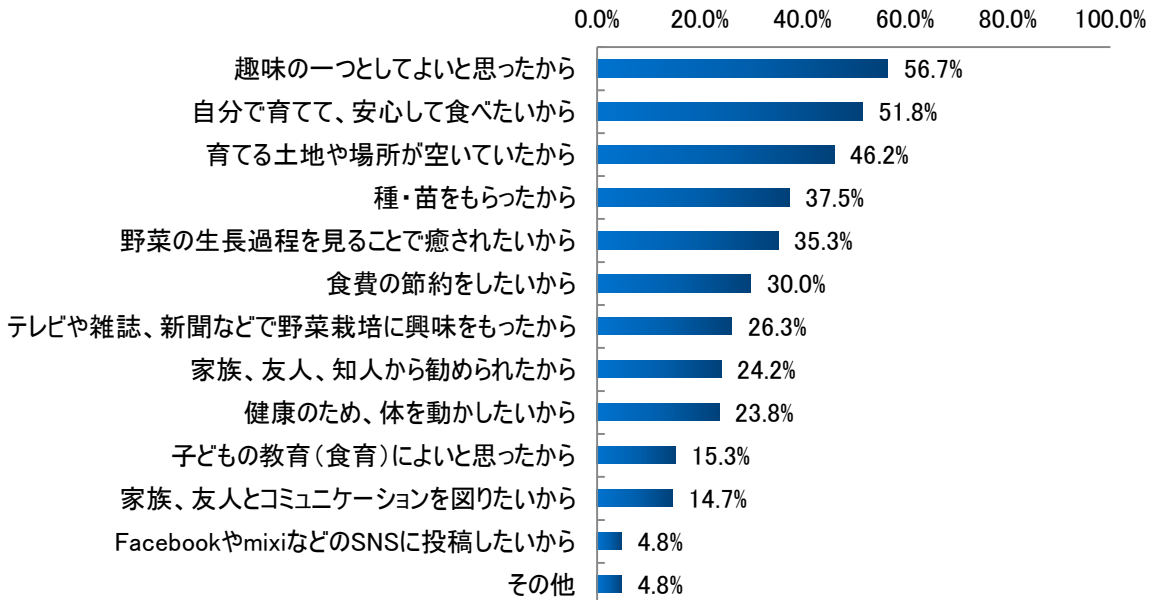
	n	子供有り	子供無し
総数	600	345	255
(%)	100.0%	57.5%	42.5%

調査結果① 野菜栽培のきっかけ

- * 年齢を問わず、長年続けられる趣味として野菜栽培を始める傾向
- * 50代以降は夫婦の共通の趣味として。

- ◆ 野菜を栽培するきっかけは、「趣味の一つとしてよいと思ったから」（56.7%）がトップ。全年代を通じてポイントが高く、年齢を問わず長年続けられる趣味としては始める人が多いことがうかがわれる。
- ◆ 次いで「安心して食べたいから」（51.8%）が過半数を超え、年々高まる食の安心・安全への関心が野菜の栽培をはじめのきっかけにつながっているようだ。
- ◆ 特に50歳代以降では「夫・妻と」栽培する人が「自分ひとりで」栽培する人を上回り、夫婦の共通の趣味となっているようだ。一方で20歳、30歳代の子育て世代は、「家族全員で」育てる傾向が高い。

■ 野菜を栽培するきっかけは n=600（複数回答）



■ 年代×主に誰と育てているか n=600（単一回答）

	n	自分ひとりで	夫・妻（配偶者）と	家族全員で	子ども・配偶者以外の家族と	子どもと	友人と	市民農園・共同農園の仲間と	その他
全体	600	36.8%	30.3%	20.2%	5.7%	4.8%	0.7%	0.5%	1.0%
20歳～29歳	120	45.0%	10.8%	32.5%	6.7%	3.3%	0.0%	0.0%	1.7%
30歳～39歳	120	22.5%	25.0%	32.5%	7.5%	7.5%	1.7%	1.7%	1.7%
40歳～49歳	120	40.0%	24.2%	18.3%	6.7%	10.0%	0.0%	0.0%	0.8%
50歳～59歳	120	30.0%	42.5%	14.2%	6.7%	3.3%	1.7%	0.8%	0.8%
60歳以上	120	46.7%	49.2%	3.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

調査結果② 野菜栽培の目的

* 食べるまでの成長過程も楽しみたい。

* 20歳、30歳代の子育て世代の野菜栽培の目的は、家計の負担軽減

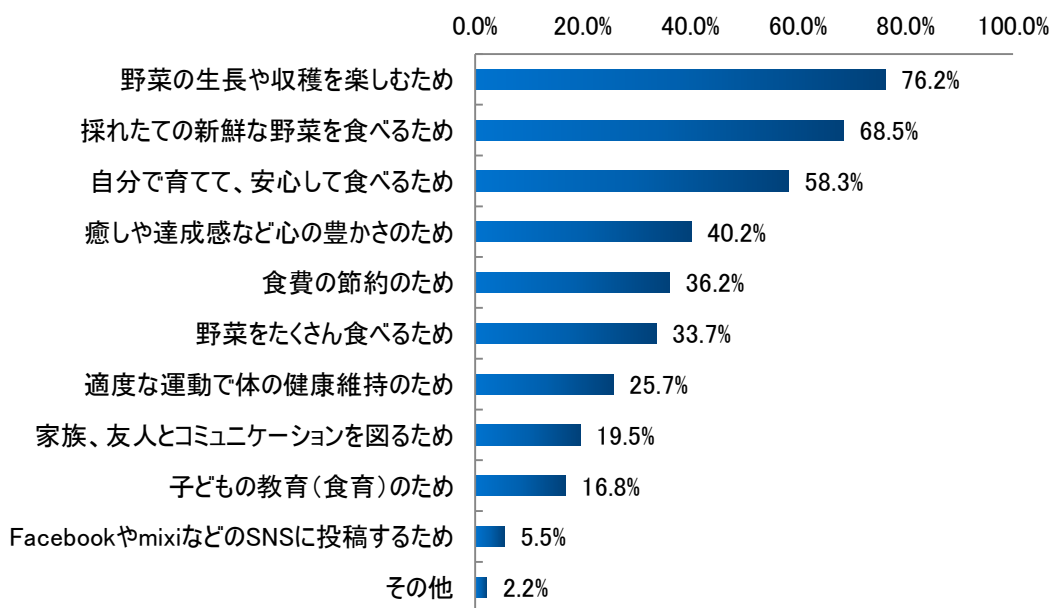
* シニア層は「心と体の健康」を意識

◆ 野菜を栽培する目的は、「野菜の生長や収穫を楽しむため」(76.2%)が1位。食べるまでの生長過程も楽しもうとしているようだ。

◆ 20歳代と30歳代の子育て世代では「食費の節約のため」「野菜をたくさん食べるため」のポイントが高く、食べ盛りの子どもの持つ家庭の家計の負担を軽減する目的で野菜栽培に取り組んでいる傾向が高い。

◆ また、60歳代以降のシニア層では「心の豊かさのため」(50.8%)、「適度な運動で体の健康維持のため」(49.2%)のポイントが他の年代よりも高く、「心と体の健康」を意識していることがうかがえる。

■ 野菜を育てる現在の目的 n=600 (複数回答)



■ 年代×野菜を育てる現在の目的 n=600 (複数回答)

	n	野菜の生長や収穫を楽しむため	採れたての新鮮な野菜を食べるため	自分で育てて、安心して食べるため	癒しや達成感など心の豊かさのため	食費の節約のため	野菜をたくさん食べるため	適度な運動で体の健康維持のため	家族、友人とコミュニケーションを図るため	子どもの教育(食育)のため	FacebookやmixiなどのSNSに投稿するため	その他
全体	600	76.2%	68.5%	58.3%	40.2%	36.2%	33.7%	25.7%	19.5%	16.8%	5.5%	2.2%
20歳～29歳	120	73.3%	54.2%	53.3%	35.8%	50.8%	42.5%	24.2%	22.5%	26.7%	11.7%	0.8%
30歳～39歳	120	75.0%	62.5%	50.8%	38.3%	47.5%	40.0%	18.3%	19.2%	24.2%	6.7%	2.5%
40歳～49歳	120	79.2%	70.8%	50.0%	29.2%	34.2%	21.7%	15.8%	17.5%	19.2%	1.7%	1.7%
50歳～59歳	120	75.8%	76.7%	60.8%	46.7%	23.3%	29.2%	20.8%	15.0%	5.8%	3.3%	4.2%
60歳以上	120	77.5%	78.3%	76.7%	50.8%	25.0%	35.0%	49.2%	23.3%	8.3%	4.2%	1.7%

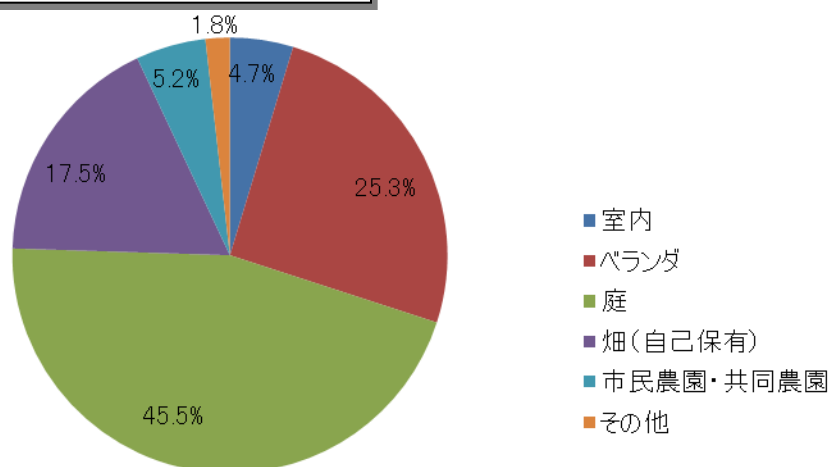
調査結果③ 栽培環境

- * 「市民農園・共同農園」での野菜栽培は、今後増加の可能性
- * 「庭」や「ベランダ」で、必要最小限の道具から野菜栽培をはじめめる

◆ 野菜を育てている場所を聞いたところ、「庭」(45.5%) がトップに。次いでベランダ(25.3%) のポイントが高かった。年々市民農園の開設が増加している現状からみると「市民農園・共同農園」(5.2%) は今後ポイントが上がる可能性は高い。

◆ 野菜を育てている場所と栽培開始時に新しく揃えたものの結果をクロス集計したところ、「市民農園・共同農園」で育てている人は、揃える道具の数も多く本格的な野菜栽培の様子が感じられるが、「ベランダ」や「庭」で育てる人は肥料・土・鉢などの基本的な道具で手軽に始める傾向が見られた。

■ 野菜を育てている場所 n=600 (単一回答)



■ 野菜を育てている場所 × 栽培をはじめた時に新しく揃えたもの n=600 (単一回答 × 複数回答)

	n	種・苗	肥料	土(培養土、腐葉土等)	鉢・プランター	支柱	スコップ・シャベル	ジョーロ・霧吹き	害虫駆除剤・薬剤	園芸用ハサミ	栽培マニュアル本・園芸雑誌	防虫・防鳥ネット	マルチ	作業服	特になし	その他
全体	600	76.5%	70.8%	69.0%	59.2%	46.3%	44.3%	39.7%	35.7%	35.0%	24.2%	24.0%	15.8%	8.0%	6.3%	4.0%
室内	28	82.1%	53.6%	46.4%	78.6%	25.0%	46.4%	42.9%	35.7%	46.4%	28.6%	28.6%	25.0%	28.6%	3.6%	0.0%
ベランダ	152	73.7%	63.2%	72.4%	79.6%	30.3%	40.8%	40.1%	28.3%	27.0%	18.4%	18.4%	5.3%	2.6%	5.3%	0.7%
庭	273	78.4%	74.4%	76.2%	58.2%	52.0%	44.7%	37.4%	37.0%	37.0%	21.6%	20.9%	11.4%	5.9%	4.0%	3.3%
畑(自己保有)	105	71.4%	74.3%	51.4%	36.2%	51.4%	41.9%	40.0%	39.0%	35.2%	31.4%	28.6%	28.6%	11.4%	14.3%	9.5%
市民農園・共同農園	31	83.9%	83.9%	71.0%	35.5%	74.2%	67.7%	58.1%	48.4%	41.9%	45.2%	51.6%	51.6%	16.1%	6.5%	3.2%
その他	11	81.8%	63.6%	63.6%	36.4%	54.5%	36.4%	27.3%	36.4%	45.5%	27.3%	45.5%	27.3%	27.3%	9.1%	27.3%

【参考資料】市民農園の開設数の推移 (農林水産省HP「市民農園をめぐる状況」より)

	H5年度	H10年度	H15年度	H20年度	H23年度	H24年度
農園数	1,039	2,119	2,904	3,382	3,968	4,092
区画数	56,727	112,554	152,481	165,479	183,182	186,932
面積 (ha)	291	627	959	1,164	1,339	1,363

調査結果④ 栽培する野菜とその理由

*** 育てやすい「夏野菜」の栽培傾向が高く、中でも「ミニトマト・ミディトマト」が大人気。**

- ◆ この一年で育てた野菜を聞いたところ、「ミニトマト・ミディトマト」(58.8%) がトップとなった。次いで「きゅうり」(52.3%) 「なす」(49.3%) と夏野菜が上位3位を占めた。
- ◆ 育てた理由について上位3位の「育てやすい」「好きな野菜」「少ないスペースで栽培できる」という回答と育てた野菜をクロス集計したところ、いずれも「ミニ・ミディトマト」がトップとなった。育てやすく、みんなが好きな「ミニトマト・ミディトマト」の人气が浮き彫りとなった。

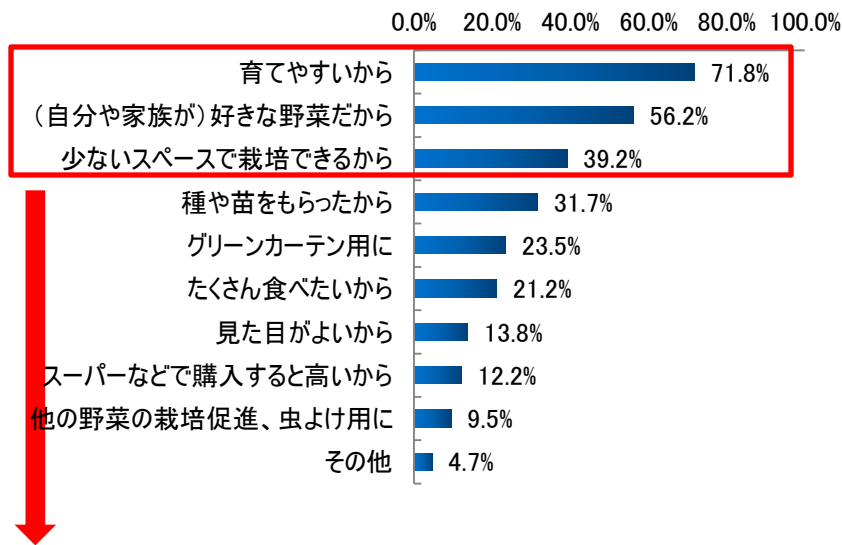
■ この一年で育てた野菜(10位まで)

(n=600) (複数回答)

順位	野菜	%
1	ミニ・ミディトマト	58.8
2	きゅうり	52.3
3	なす	49.3
4	ねぎ	46.0
5	大葉(シソ)	44.5
6	ピーマン	41.2
7	ハーブ類	39.2
8	トマト(大玉)	38.2
9	ゴーヤ	33.7
10	大根	30.8

■ 育てた理由(複数回答)

(n=600) (複数回答)



■ 育てた理由別 × 育てた野菜(複数回答 × 複数回答)

◆ 育てやすいから n=431

順位	育てた野菜	%
1	ミニ・ミディトマト	61.0
2	きゅうり	53.1
3	なす	49.4

◆ 好きな野菜だから n=337

順位	育てた野菜	%
1	ミニ・ミディトマト	67.4
2	きゅうり	62.9
3	なす	59.6

◆ 少ないスペースで栽培できるから

n=235

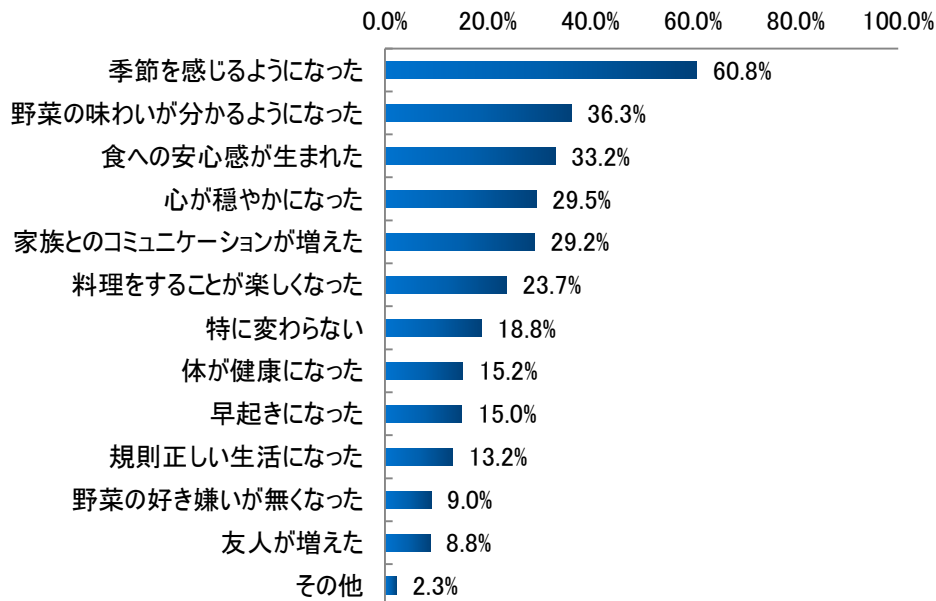
順位	育てた野菜	%
1	ミニ・ミディトマト	66.0
2	大葉	54.5
3	きゅうり	51.9

調査結果⑤ 生活意識の変化

- * 季節の変化を感じ、野菜の旬の美味しさを実感できるようになった
- * 20歳代、規則正しい生活リズムに効果が期待
- * シニア世代の精神的なゆとりの変化

- ◆ 生活意識の変化について聞いたところ、「季節を感じるようになった」(60.8%) がトップ、次いで「野菜の味わい分かるようになった」(36.3%)。野菜を栽培することによって、野菜の生長にはかかせない**季節の変化を感じ、旬の野菜の美味しさを実感できるようになった**ことがうかがえる。
- ◆ 20歳代の若い世代は「早起きになった」(30.8%)、「規則正しい生活になった」(24.2%) が他の世代よりもポイントが高く、**野菜栽培をするようになって生活のリズムが改善される効果も期待できると**みられる。
- ◆ また60歳代以降のシニア層では、「食への安心感が生まれた」(33.2%)「心が穏やかになった」(36.7%) のポイントが他の世代よりも高く、**精神的なゆとりの変化**がみられた。

■ 野菜を育てるようになって、生活意識がどのように変わったか n=600(複数回答)



■ 年代 × 生活意識の変化 n=600(複数回答)

	季節を感じるようになった	野菜の味わい分かるようになった	食への安心感が生まれた	心が穏やかになった	家族とのコミュニケーションが増えた	料理をすることが楽しくなった	特に変わらない	体が健康になった	早起きになった	規則正しい生活になった	野菜の好き嫌いが無くなった	友人が増えた	その他	
全体	600	60.8%	36.3%	33.2%	29.5%	29.2%	23.7%	18.8%	15.2%	15.0%	13.2%	9.0%	8.8%	2.3%
20歳～29歳	120	60.0%	32.5%	23.3%	33.3%	34.2%	19.2%	11.7%	19.2%	30.8%	24.2%	11.7%	13.3%	1.7%
30歳～39歳	120	55.8%	39.2%	32.5%	28.3%	30.0%	27.5%	20.0%	12.5%	16.7%	11.7%	8.3%	8.3%	2.5%
40歳～49歳	120	59.2%	25.8%	26.7%	20.0%	28.3%	20.0%	25.8%	8.3%	5.8%	5.8%	6.7%	1.7%	2.5%
50歳～59歳	120	67.5%	44.2%	39.2%	29.2%	25.0%	29.2%	17.5%	14.2%	10.8%	10.8%	10.0%	5.0%	1.7%
60歳以上	120	61.7%	40.0%	44.2%	36.7%	28.3%	22.5%	19.2%	21.7%	10.8%	13.3%	8.3%	15.8%	3.3%

調査結果⑥ 収穫した野菜の対処

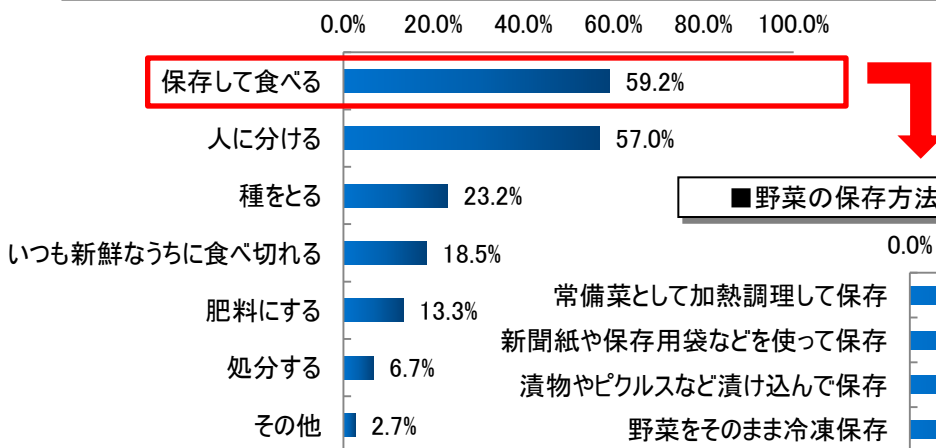
* 食べ切れないほどの野菜を収穫できる人は約8割

* 保存方法は、加熱調理し常備菜に。

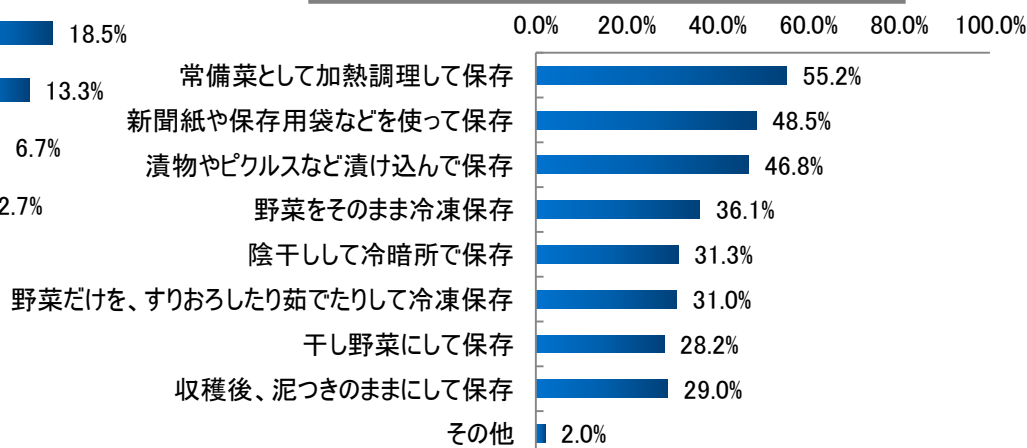
◆ 収穫した野菜を食べ切れない時の対処法を聞いたところ、「新鮮なうちに食べ切れる」と回答した人は18.5%。残りの8割は「食べ切れないほど」収穫していることが分かった。

◆ 「保存して食べる」(59.2%)と回答した人に、保存方法を聞いたところ「常備菜として加熱調理」(55.2%)がトップ。

■ 収穫した野菜を新鮮な内に食べ切れない時の対処法 n=600 (複数回答)



■ 野菜の保存方法は n=355 (複数回答)



調査結果⑦ 野菜苗・種を購入する基準

* 育てやすさと美味しさを重視

◆ 話題の品種やブランドなどにはとらわれず、育てやすい品種を毎年継続的に育てる傾向が高い。

■ 野菜苗・種を購入するとき何を基準に選ぶか n=600 (複数回答)

n	育てやすい品種	味のよい品種	価格の安さ	毎年購入しているものを購入する	接ぎ木苗かどうか	スーパーなどで売っている馴染みのある	苗や種の産地	スーパーなどでは見たことがない面白い	発売元やブランド	TV・新聞・雑誌などで話題の品種	価格の高さ	その他
600	477	231	199	127	122	114	107	104	81	66	25	21
100.0%	79.5%	38.5%	33.2%	21.2%	20.3%	19.0%	17.8%	17.3%	13.5%	11.0%	4.2%	3.5%